8 チャベネゴキブリ雌雄成虫の潜伏場所開拓におよび相関関係の影響
○小曽根惠子・金山彰宏（横浜市衛生研究所）
Effect of position of feeding site on finding a new hiding place by adult
german cockroach, Blattella germanica
Kosone K. and Kanayama A.

これまではチャベネゴキブリが、住み慣れた潜伏場所を出て、新しい潜伏場所を開拓していく様子を、雌成虫単独の集団で観察した。今回は前回と同様の容器を用いて、雌雄成虫が混在した条件下での開拓位置と潜伏場所開拓との関係を観察した。

活動場所として48.0×68.0cm、高さ18.0cmの大型容器、潜伏場所には10.0×15.0cm、高さ8.0cmのプラスチック容器を用いた。

今回は潜伏容器内に、チャベネゴキブリの雌雄成虫それぞれ10個体、計20個体を放し、1つの潜伏場所に特定させた。1週間後、新たに別の潜伏場所を取り付け、さらに活動容器内の潜伏位置を変えることにより、雌雄成虫、未抱卵雌および雄成虫それぞれどのように新しい潜伏場所に移動して行くか、潜伏場所開拓の様子を毎日観察した。

9 東京都の春、夏、秋、冬におけるブグの採集成績
○佐藤英一（川崎市衛生研究所）、齋藤一三（横浜市大・医・衛）
Survey of the blackflies in the four seasons of Tokyo Metropolitan
Sato E., Saito K. and Kanayama A.

観察者は日本およびペルーのブグ相関調査を行ってきた。東京都のブグ相についても既に、冬期のブグは藻藤ら（1988）が報告し、夏期は佐藤ら（1987）が口頭発表している。今回は、これらに秋期と冬期におけるブグの採集状況を加えて報告する。

調査は、最初の調査地点と前回同一の地点で行うように努めた。22地点で2回（冬期は2回）における調査を行い、15地点から2属17種7,679個体が採集された。このうちP. castanea、S. longipalpisの2属2種は既報の新記録種、東京都からはこれまでに2属18種が記録されており、今回2属新記録種を加えて2属20種のブグの分布が明らかになった。最も多く採集された種はS. japonica-cum 203個体で全採集数の38.2%を占め、ついでS. ochridaの2,158個体（28.1%）、S. bidensatumの785個体（10.4%）の順で、これら3種で全採集数の4分の3を占めた。ブグが採集されなかった地点は武蔵野台地から基盤かかけての地域であった。4季を通して採集された種はS. japonica、S. subdecoratum、S. ochridaおよびS. bidensatumの4種であった。季節によって採集されない種もあった。

10 数種動物血液を用いた人工腎吸血によるコロモジラの飼育の試み
○小林敬生・平岡敏・三原利・安居院宣昭（予研・昆虫医科学）
Preliminary study on artificial rearing of human body lice
Kobyashy M., Hirooka T., Mihara M. & Agui N.

近年、アタマジラの再流産が問題となっており、ヒトからの直接吸血によるシラミ類の伝代飼育法の開発が望まれている。コロモジラ1齢幼虫を動物血液を人工腎吸血によって与え、その後の発育を観察した。ウサギ及びヒト血液の場合、非活性血清を吸血した群の生存率が著しく高い傾向が見られれたが、両群とも吸血開始7日目までに90%以上が死亡し、2齢への脱皮は認められなかった。一方、固定したマウス（PC系）の皮膚上に直接コロモジラ1齢幼虫をのせ吸血させると、吸血活性が認められたが4日目以降死亡率が著しく高まり、全体が赤色化した個体が多く観察された。

この内容に示されていると同様の実験を行ったが、死亡率は高くなり、2齢群に差が認められなかった。